

海外派遣研修報告（オーストラリアコース） オーストラリア研修を終えて

事務局経営企画部事業課 北川 裕訓

10月19日（土）～25日（金）までオーストラリアシドニーへ研修に行かせていただきました。

日本からシドニーへは香港経由で約7時間、時差は2時間です。気候は、観光（私たちは研修です）するには最も良い時期と聞いていましたが、向こうも異常気象のようで、予定では春だったはずが真夏並みの暑さ…。現地の人達がTシャツタンクトップ姿だったのに対して、我々日本人チームだけが長袖で滑稽でした。

まずシドニーの町を歩いて気付いたのは、多くの人種の方が町を行き交っていることでした。オーストラリアでは移民が非常に多く、人口のほぼ4人に1人が外国生まれといわれており、福祉においては西欧のような「高負担・高福祉」や、自由競争のもと実施しているアメリカのようなものではなく、自立を原則とした最低保障です。財源は税金による一般財源で賄い、国によるサービスが不足する部分は民間サービスを利用するという方式がとられており、西欧とアメリカとの折衷福祉のようでした。このようなことからオーストラリアの福祉は「中福祉・中負担」と言われていますが、実際には消費税10%に加えて、収入が年間500万円以上の方には所得税が47%も課税され、さらに医療費として収入の1.5%を納めなければならないので、オーストラリア人にとっては「高福祉・高負担」といえるようです。しかし、オーストラリアの高齢者には生活に対する不安がほとんどありません。なぜなら、年金は掛け金なしで受け取れ、施設や在宅サービスとも年金だけで賄え、サービスで年金を使い果たす事のないシステムになっているからです。この点は日本と大きく違う点です。

またオーストラリアでは、日本でいう特養や民家型のショートステイ等の施設を見学することもできました。施設には体のとても大きな方も入居されているので、ノーリフトが徹底されていました。あと気付いたのは、どこの施設に行っても入った瞬間にフローラル系のよい香りが漂ってきて、清潔さを感じられました。

施設の視察以外には、オーストラリアの認知症ケアの第一人者であるボブブライズ氏の講義を受ける機会に恵まれました。ボブ氏が「認知症は進行とともにいろいろな記憶や技術が失われる。認知症は究極な泥棒である。支援者は、認知症の方の過去の情報を紐解き、認知症の方の世界を理解できる名探偵にならないといけない。」と話されていたことが印象的で、認知症の内的世界を学ぶことができました。

貴重な良い経験をさせていただいた事に心から感謝申し上げます。

